

白鳥事件資料抄録 (I)

50年問題

北海道戦後史研究会

「白鳥事件を考える集い」

白鳥事件
事件

資料

2012年10月27日

小樽商科大学札幌サテライト

【目次】

- 1 赤ランプ事件の報道記事 (『北海道新聞』1951年12月21日付夕刊)
- 2 脅迫状・投石事件の報道記事 (『北海道新聞』52年1月9日付夕刊)
- 3 「対警宣言」全文 (52年1月上旬。高安被告の一審判決より)
- 4 白鳥事件の最初の報道記事 (『北海道新聞』52年1月22日付朝刊)
- 5 「天誅ビラ」報道記事 (『北海道新聞』52年1月24日付夕刊)
- 6 二つの「天誅ビラ」
 - A 「降る」ビラ (道立図書館所蔵)
 - B 「下る」ビラ (警察庁警備局『戦後左翼主要事件 回想』より)
- 7 白鳥事件に対する『道新』の初社説 (『北海道新聞』52年1月26日付朝刊)
- 8 日本共産党の「軍事方針」の一部
 - A 六全協決議に基く札幌委員会の報告と自己批判 (追平雍嘉『白鳥事件』日本週報社、1959年)
 - B 四全協決定より (日本共産党『平和・民主・独立文献 第1集』駿台社、1953年)
- 9 大通拘置所の村上国治氏からS氏宛てたメッセージ (1963年)
- 10 中国亡命の鶴田・佐藤博・宍戸各氏の記事 (『北海道新聞』97年6月8日付朝刊、2002年1月21日付朝刊)
- 11 川口孝夫氏の証言記事 (『北海道新聞』98年10月29日付朝刊)
- 12 『道新』特集「白鳥事件は今 発生から60年 上・中・下」 (『北海道新聞』2012年2月28日～3月1日付朝刊)

資料 I

赤ランプ振り列車妨害

日共の新戦術か 党員某の行方追求

日共党員と懸われる男が赤ランプを振って列車をとめたという全国ではじめての列車妨害事件が札幌で発生、鉄道公安、警察当局では日共の戦術新戦術とみて警戒した捜査を始めた。

十九日午後七時六分ごろ右浜車十

一両を連結した国鉄本線より第八

四号列車が札幌市北五東大橋

り口を進行中、前方で赤ランプ

を振っている男がいるのを機上

高松警備(心)が発見、数回にわた

って警笛を吹鳴したが赤ランプを

振りつづけるので急停車、乗員が

飛びおり乗客をたんと「この石

炭は朝鮮に運ぶのだらう。日本人

が通つた石炭をなせむのか」と

アツ的な言葉を吐いたので、捕え

ようとするところのまゝ、暗転して逃

走した犯人は年齢三十三、四歳ぐ

らい、半オーバーを着ていた。

札幌市警、札幌公安隊では日共関

係者による計画的な悪質列車妨害

とにらま直ちに捜査を開始。

札幌市警では日共の新戦術とし

てこれを重視、二十日深夜から

警備隊機動員で慎重な捜査に

入つたが、十二月初旬に市内某

所で行われた日共札幌総会開

会場の際、党員某(心)が鉄道用

赤ランプの入手方を会場で示さ

つた事実があることをつきとめ

今回の列車妨害はこれら日共党

員間で計画的に策られたものと

みて目撃者某の行方を追つて

おり、同人の逮捕によつて日共

札幌総会の陰謀が暴露されるの

ではないかと当局ではがせん緊

張している。

な谷市警では二十日午後一時から

第八四列車の機上士、助手、車掌な

びを呼び状況聴取を行っている。

二十二日に拿

捕船員の返還

【小樽発】本年第六回目のソ連奉

捕船員海上返還が近々行われる。

期日は二十二年午後時、余念館

点は宗谷神と透能登呂神の中間で

送還人員は十一名、本年五月根

ノサンプ川沖で拿捕された日露漁

業所屬第七東邦丸(二三〇)の乗

組漁夫十名と他に日本人捕虜一

名が加つているものとみられる。

二十一日期滿内から巡視船もがな

(二五〇)が引取りに向う。

政令違反で逮捕

京都市交労委員長ら

【京都発】京都市警は二十日午前七

時を以て警備三百名を動員、スト

長八木宗(心)日中交部長人長太郎

総行中の市交労生主取原なを六カ

(心)北車庫交部長山田重次(心)の

1952.1.22

資料 4

白鳥 札幌市警備課長射殺さる

銃聲で通行人発見

帰宅の途次、背後から狙い撃つ 当局 日共関係者を洗う



白鳥警備課長

二十一日夜、札幌市東区南一条五丁目、白鳥警備課長小松本三郎が、帰宅の途次、背後から狙撃され、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。小松本課長は、二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。小松本課長は、二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。

犯人の目星ない

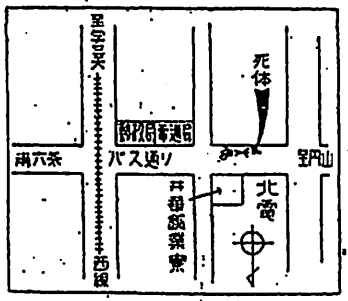
今朝一時から緊急捜査令議
札幌市警備課長小松本三郎が、二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。今朝一時から緊急捜査令議。札幌市警備課長小松本三郎が、二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。

銃声は二発

左隣警備員の銃声は二発。発見されたのは、同課の警備員である。今朝一時から緊急捜査令議。札幌市警備課長小松本三郎が、二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。

不具の子を焼殺す

母親娘の縁談に支障。二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。母親娘の縁談に支障。二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。



現場の状況

昨年暮から脅迫状 夫人談 普段と変らず出勤

突如の脅迫を受ける。夫人は、昨年暮から脅迫状を受け、普段と変らず出勤した。夫人は、昨年暮から脅迫状を受け、普段と変らず出勤した。夫人は、昨年暮から脅迫状を受け、普段と変らず出勤した。夫人は、昨年暮から脅迫状を受け、普段と変らず出勤した。



白鳥警備課射殺事件の現場

二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。二十一日午後七時、自宅から警備課へ向かっていた。警備課の警備員は、小松本課長の背後から銃撃された。小松本課長は、重傷を負った。発見されたのは、同課の警備員である。

資料5

1952.1.24

目撃。激越な反響を呼ぶ

射殺事件に關連か

捜査本部 配布の男五名を追及

札幌市警視庁捜査本部は、昨(二十二)日午前八時ごろから約一時間、自由労働会館の第一階北大橋口を出入りした札幌市警視庁捜査本部の捜査員ら、早急捜査に際し、この活動の激越な反響を呼ぶ。捜査本部では射殺事件と何らかの關連があるのではないかと前記五名の行方を探している。

「目撃者の証言は、この事件の重要な手がかりを握っている。捜査本部は、この目撃者の証言を、徹底的に調査し、真相を究明するつもりだ。」

「目撃者の証言は、この事件の重要な手がかりを握っている。捜査本部は、この目撃者の証言を、徹底的に調査し、真相を究明するつもりだ。」

「目撃者の証言は、この事件の重要な手がかりを握っている。捜査本部は、この目撃者の証言を、徹底的に調査し、真相を究明するつもりだ。」

国警長官も来道 事件を重視

札幌市に起つた白鳥警備隊長射殺事件の背後關係を重視した国警本部では二十一日早、北海道庁出張中の同本部警備隊長上藤警部が事件の背後にひそむ關係の調査を命ずる一方、森田国警長官も二十一日現地に赴き、北海道の警備

「この目撃にならぬなら、たれが保証できようか。」

「全警備隊員は、この上警と高田市長と、警察の生命と、家族の幸福のために、この一回の民主運動に対する責任を即時中止せよ。決して第二の白鳥となるような行爲をするな。」

「約三十行にわたり、暴力的言葉をこらねばならぬ。射殺事件に關連しての目撃關係をたしする捜査隊と海軍要員、と、警備隊に對する悪意の無罪開放、高田市長の射殺運動の先頭要求など、その他四項目の、心の訴え、を手に紙に印刷しよう。」

逃走経路の捜査に全力

連日捜査會議 札幌市警備隊長射殺事件捜査本部では二十一日夜半の目撃

不安になり小樽へ

夜の女殺し、取調べ進む

夜の女殺し、高橋は寿都から小樽にきて、特殊飲食店に泊つたのが、その日の夜、彼が寿都から小樽に出たとき、小樽の取調べによると二十一日夜、休みの開始式があり高橋は登

高橋、札幌に護送

二十一日小樽市内で逮捕

自由の凶敵！

自身市警署長の腕くら末路こそ

金フランシスト官憲兵の野蠻な暴行である

人も知る著名なフランシストの頭分、自身市警署長が殺されたことは、昔ながらいまだ権力をかきまわす行りかざりをつくして来たことからも、あまりにも当然のことである。いままでも自由を愛し平和を信ずるものであるならば、思はず手をたいて殺さず、「失なはれんとする國體を民族の自由のため」に心からの厭恨をあげたにちがいない。

だれもがよく知つていゝようにいまわれわれ日本人は、飽く自由も生かす自由も政治運動の自由も、個人の思想の自由も、すべてが古領南と反動政府とその番犬どもの勢力によつてまったくおぼえつけられてゐる。札幌では年のくれた「せめておもて代だけでも下さい」と陳情した市役所のチーフの代表を、高田市長の命令で赤十字社に「おちこちなり」「市民に安んずるを下さい」とか「もう二度と選挙はないで」「十一」といふような電柱に貼つてゐるものまで、かたじけなく捕縛して責問をふせつてゐる。これはほんの一例でしかない。このような奴らのあまりにも強硬な強圧に多くの市民は、絶望となく抗議を申入れ、反動したにもかわらず、官憲の頭分は益々アロヨツになり、下は検査府のただ威嚇からはじまり、上は一切の民主運動にいたるまで、すべてがいつの明黒時代とまつたくなつてゐる。

自身はこのような市警署長の絶頂権威であり、まさに自由の凶敵であり、ただ、彼に対する全市民のうらみは、なほ古に「くせものおちこち」である。もはや彼をこの世にさらせておく暇も、わが市民は「くせもの自由も許されぬほどの大フランシスト」であつたのだ。

社団法人に「おちこち」殺し、自己の名譽とパンのため、自由をかけた國體をドレイのどん監にツキ落さんとするフランシストの愚行は、自身之死によつて一層おぼえつけられた。しかし「天は永久に服政を許さず、民は自由のためにケツ起する！」自身之死は決して後一人の問罪ではない、奴奴たる自由の敵、民衆の敵ともいふにして、なほ反省しないとするならば、すべて第二の自身にならんと誰れが保証しようか。

全市の労働者、農工、學生、市民の皆さん
自由と平和を愛する皆さん！

自身、行つた放言行動を孤立させることなく、労働者を先頭に全市民が結束し團結して不屈の組織をつくり、自身と共闘のために風をよそひ、おちこちを倒す。

全警署長及その上級者と高田市長を！
 諸君の生かすおちこちの暴行のために今後一切の民主運動に対する弾圧を即時中止せよ。そして高田市長と反動政府の命令を拒否し、市民のために良心ある役人となられよ。決して第二の自身となるやうな行

動を許さなかれ、自身死後のもつて、東洋各教にも輸入を思ふなかれ、よくに「おちこち」を心から許さぬ。

●自身、自身を自由とする一切の弾圧の弾圧を即時中止せよ。朝未明（二十一日）自身死後による民主青年團札幌支団のひびきに、自身に對する、此に對する。

●女一切の政府犯罪、平和、自身、學生運動の犠牲者を即時無罪釋放せよ。
 ●女大連、自身死後、自身を即時釋放せよ。高田市長はその釈放運動の先頭になつて。
 ●女、自身死後、自身に對し、日本警察史上まれにある無罪釋放を加へた。高田市長と松川有平をヒールせよ。
 ●十八日の工部局、自身と自身を對してわれわれの日本から願望した反動を、道政一國民の自由を守る斗いを、札幌一よ。

日本共産党札幌委員会

一九五二年一月二十二日

A 日本共産党第六全会(一九五五年)

日本共産党は昭和三十年八月発表の第六回国協議会を中心として、かつての秘密主義、非法主義を止め、極左冒險主義の自己批判の上で立つて公然活動へと戦術転換を行ったが、その際この方針に基づいて、同年末にかけて、中央幹部の出席のもとに、地方活動家会議とか、細胞代表者会議という形で、党会議を一齐に開催した。この線に沿って北海道地方委員会は北海道地方党協議会を三十年十二月二日から四日にかけて開いており、また①においても札幌協議会が開かれたのであるが、その時白鳥事件も大きな問題の一つとして取り上げられている。その会議の席上で、当時札幌の党の自己批判を次のように発表したが、その中でも白鳥事件の誤りが鋭く自己批判されたのである。

六全会の決議に基く報告の自己批判

——日本共産党札幌委員会(抄)——

六全会の決議が発表されてからすでに二月半もたりました。この間札幌委員会及び各細胞の決議の討論と学習、その決議による委員の統一と団結は全体として他の委員会に比し非常に立ちおくれしていることが去る九月二十日から三日間、東京、赤田中央委員出席の下に開かれた全道活動家会議で明らかにされました。この事は札幌委員会はその政治的、理論的思想的水準の低きから六全会の決議の精神を掴み取れず、誤りの上で極めて不忠実であったことを痛感して居ります。

それは過去の札幌委員会の誤った指導のため正党を離れ、又は不適の状態におかれている同志達にその苦しみを続けさせ、或は細胞の活動を困難な立場に追いやり、且つ米日反動との激しい闘いの中から正しい解放の道を探り、団結と統一を樹立している労働者農民知識人、青年婦人、中小業者を、そして鉄領の中に眠るべきことすら許されず生きている数百万大衆の苦しみを感じない前衛党の名に背く無責任な態度であったことを深く自己批判します。(中略)

そしてこの後に起きたレッドマン・シに依りすぎた懸賞、懸賞から党の基礎を失い、しかも僅かではあるが辛うじて活動に就いた同志たちに対してこそ大切に育てるべきことを忘れ、指導を弱かにして階級的偏正的な闘争戦術に没頭していたのです。

この限りは一九五〇年の分裂により一層拍車を加え、札幌に於いては郷土の軍平化と学園の自由を守る、北大の闘争、生活と権利を守る自由労働者の闘争に於ける誤った戦術指導は遂に白鳥事件の挑発に果せる、わるという状態に陥った。

しかもその後も各公判闘争、七・一五までの闘争形態など何れも六全会で指摘している「革命の勝利の

ために第一に必要な労働者階級の多数を思想的に獲得すること、戦時中の党の影響を決定的に強める「革命を本れた極左冒險主義と大衆の要求とを基きそれを内部から高めるのではなく外部から突進に合わない商度の要求を押しつけて引廻すというセクター主義の弊病的な現れであった。この重大な誤りは一面では既に党幹部の口交を以て、一九五一年、五三年迄六〇名もの同志と支持者が検被殺戮され獄中で偏向を強要されて離脱した同志は二〇名に及び一面では今も尚、党は暴力団体の理論的水準の低きであると考へます。(以下略)

B 日本共産党第六全会決定(一九五五年)より

われわれは労働者、農民、学生、市民、青年、婦人、少年の間で、同志ありきセクター精神に陥り、積極分子をめぐり、党員、非党員を問わず、その中核を組織し、ついでに大衆的に発展させる必要がある。現在、各分野において、とくに青年が中心となって各種の行動隊組織が盛んであるが、これを更に階級的に組織化し、恒久化し、その発展を図らねばならぬ。そのためには、これらの中核層の政治教育とその任務を明らかにし、党の指導の下に規律ある大衆的な自衛隊組織を育成することが緊急の課題となっている。

自衛隊は大衆の政治闘争の発展を、暴力をもって切り開いて行く先鋒部隊である。それは地域闘争の具体的な諸条件の中、こそ発展して行くべきである。

党はこの活動の指導のため、特別の対策を立て、系統的にかつ急進的にこの活動と組織の発展を図る必要がある。

暴力闘争における極左的傾向の根柢は、階級敵権力の力を過小評価して居る主義主義に基づいている。党内において極左的傾向が非法活動と結合すると、党は一個のテロ的傾向を呈して居る危険がある。中国地方の分派の連中は明らかにこのことを証明した。党内の統一と党の力を破壊する危険な闘争は、決してテロ手段によって解決されべきものではない。この傾向を正す必要があり、この傾向を正す必要があり、この傾向を正す必要がある。これはソ連の

資料 8 日本共産党の「軍事方針」の一部

- 【出展】A 追平雍嘉『白鳥事件』日本週報社、1959年。
- B 日本共産党『平和・民主・独立文献 第1集』駿台社、1953年。

メッセージ

のみなさん、お暑い中、本吉さん、ろろうさまです。無実のものの無罪はやくきめよと願ひし、たまた、今日またこうしてお集り下さつておられるみなさまに、心から感謝 致します。

「松川の被告のみなさん、かつて仙台の刑務所の中から、手紙で私をばげましたつづけ下さいました。みずからは、いゆいのなり死刑の脅迫にさらされながら、なつかつ、我慢の私をばげましたつづけられたいのです。あの無限の広い心こそ、遂には、あらゆる人々の目をひかせる判をやりなかせ、十二年目に無罪の判決をさせたいのだと、信じます。私は「松川の」人々の運動に深くまなびます。そして、

皆様は、心から謝ります。

同じ松本

松川の無罪を一日も早く確定させると共に、
叔力の手によって、白鳥事件の他人のウソや二年も出の
中であつたと称するのには、カキと光っているニセのピストル弾
丸で無実の罪におとすな、の世論を、心からお望み
致します。十二年の、氷は、独房からますますながせの
世論を、心からお望みします。

一九五三年八月

松本大倉橋事務所

村上 周

松川無罪訴訟実行委員会

大行進

○○○○ 集會 松本

白鳥事件は今

発生から60年

道警本部11階の警備で死亡したことが明らかになった。執行かになつてゐる。消息不明の鶴田容疑者は存る。1952年1月、札幌市内の路上で札幌市警備課長の白鳥一雄警部(当時36)が射殺された「白鳥事件」で、容疑者2人に出されたものだ。160回目の更新が間近に迫る。

元隊員の記憶 風化憂い手記発刊へ

「白鳥さんは憎むべき権力の象徴だった」。た時期。北大生だった白鳥警部の出勤経路などを調査する役割を担い、殺人ほう助などの罪で有罪が確定した札幌市の会社役員高安知(彦さん)81は振り返る。当時の学生運動が各を摘発した白鳥警部は、たどられる銃弾が山中で見つかった。後に捜査側による推測も指摘されたが、犯行を裏付ける唯一の物的証拠となり、裁判の行方を決定づけた。

「倒さなくてはならぬ強敵とされていた」。逮捕後、計画を認め、裏付ける唯一の物的証拠となり、裁判の行方を決定づけた。今でも後悔「当時は白鳥さんに妻や子供がいるという想像力が働かなかつた。遺族にたいし思いをさせてしまひ、申し訳ない」。高安さんは今も、後悔の念をぬぐえずにいる。

時効が停止

事件では3人が逮捕され、7人が指名手配された。このうち殺人容疑がかかる佐藤博と鶴田倫也両容疑者は、中国への出国が確認されたため時効が停止。北海道新聞の取材で、実行犯とされている佐藤容疑者は88年に北京



白鳥警部が射殺された現場に立つ高安知彦さん。「道族につらい思いをさせ申し訳ない」と語った。＝札幌市中央区南6西16

1952年1月	白鳥警部射殺される
10月	村上国治さんを別件の容疑で逮捕
53年6月	高安知彦さんを別件の容疑で逮捕
54年3月	佐藤博、鶴田倫也容疑者ら殺人容疑で指名手配
55年8月	村上さんを首謀者として殺人罪で追起訴
57年5月	高安さんらを殺人ほう助罪で起訴。一番で村上さんに無期懲役の判決。控訴
60年5月	一番で高安さんに懲役3年、執行猶予3年判決。刑確定。二番で村上さんに懲役20年の判決。上告
63年10月	最高裁が村上さんの上告棄却、刑確定
75年5月	最高裁が再審請求棄却
94年11月	村上さんが自宅の火災で死亡

白鳥事件の経過

逮捕された3人のうち、首謀者とされた村上、冤罪を訴え続けた党札幌委員会委員長(当時)の村上国治さんら2人は亡くなった。「このままでは事件が起きた理由が埋もれてしまふ」との危機感が募る。「二度と若い世代に過ちを繰り返

「再審開始決定の扉を開いた最高裁決定で知られる白鳥事件の発生から60年。今も事件に向き合う人たちがいる。」(報道本部の酒井隆平が担当します)

積雪91センチ

【函館】上空に停滞した低気圧の影響で大雪となった函館市は27日、積雪量が1977年と85年に並ぶ観測史上1位の91センチを記録した。雪が比較的高い地域だけに、除雪が追いつかず市民生活は混乱し、市の除雪費も過去最高に膨らむ見通しだ。



雪雲

曇りが続き、雪の解上回って降雪が続くと説明する。126日の函館の平均4.2度で、平年よ

訪問先社長が略取容疑否定 女性会社員団体 愛知県東海市の会社員相川比奈江さん(48)

白鳥事件は今

発生から60年

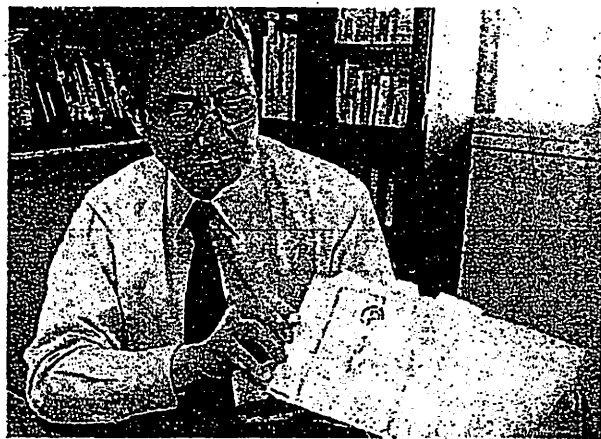
白鳥事件の鶴田容疑者の写真と異なり、とは、事件当夜の様子に

真相を追う

容疑者と北京で面会

997年6月、通信社のスクープ記事が配信された。殺人容疑で指名手配中の当時67歳の鶴田倫也容疑者を、亡命先の北京市内でインタビューした内容だった。

実はこの前年、同容疑者と面会していた男性がいる。札幌市中央区の警備会社社長斉藤孝さん(61)だ。96年9月、人を介して北京のホテルのロビーで会う約束をした。鶴田容疑者は白い開襟シャツに黒いスボン姿。瘦せていた若いこ



古びて変色した「追平手記」の写しを持つ斉藤孝さん。表紙に追平さんの愛称を示す記号がある

っしりした体格で、白ついで、次のように語った」と、鶴田容疑者こともあるという。髪を丸刈りだったという。「あの様子を振り返る。の夜、バーに入った白鳥容疑者が白鳥事件を直前まで確認していた待ち伏せした。店から出てきて自転車に乗ったとされる鶴田容疑者た警部を、ヒロが追いつた。店員の男性と親し

白鳥一雄警部の動向を直前まで確認していた待ち伏せした。店から出てきて自転車に乗ったとされる鶴田容疑者た警部を、ヒロが追いつた。店員の男性と親し

かいた。その後、自宅近くで再び落ち合った。男性は事件当ヒロから、使った拳銃を受け取った。探求心に火がついた。探求心に火がついた。探求心に火がついた。

「ヒロ」とは、実行犯とされ、88年に亡命先中国で死亡したとされる佐藤博容疑者。鶴田容疑者が受け取った拳銃は仲間の共産党員が札幌近郊の畑に埋めたという。斉藤さんは抱えていたものを

「ヒロ」とは、実行犯とされ、88年に亡命先中国で死亡したとされる佐藤博容疑者。鶴田容疑者が受け取った拳銃は仲間の共産党員が札幌近郊の畑に埋めたという。斉藤さんは抱えていたものを

「ヒロ」とは、実行犯とされ、88年に亡命先中国で死亡したとされる佐藤博容疑者。鶴田容疑者が受け取った拳銃は仲間の共産党員が札幌近郊の畑に埋めたという。斉藤さんは抱えていたものを

「ヒロ」とは、実行犯とされ、88年に亡命先中国で死亡したとされる佐藤博容疑者。鶴田容疑者が受け取った拳銃は仲間の共産党員が札幌近郊の畑に埋めたという。斉藤さんは抱えていたものを

資料 12-B

雪内

【釧路】昨年、釧路、根室両管内で発生し道警釧路方面本部に届け出があったシカと車との衝突、接触事故が過去最多の791件に上り、両管内で起きた人身事故の件数を初めて上回った。釧路開建が両管内で行った調査では、ドライバの5人に1人

はるかに多いことに驚いた。今後とも調査を続け、対策に生かしたい」としている。道路管理者の釧路開建が記録している死骸事故を届け出ないこと

もあるため、実際の数はさらに増える可能性がある」とみている。事故急増の原因として、地元の専門機関は「個体数の増加で、シカが道路や線路近くを生活に利用する頻度が増えたためではないか」とみている。

列車に接触し小6女児死亡 東京・品川 28日午前5時5分ごろ、東京都品川区西大井5のJR横須賀線の線路上で同区の小学6年の女子児童(12)が貨物列車と接触し、死亡した。強く打って死に至った。警視庁大井署によると、列車の運転士は「(女児が)線路に横たわっていた」と説明しており、同署は自殺とみて調べている。女児の母親は、自殺について思い当たること

最多791件／5人に1人経験

強く打って死に至った。警視庁大井署によると、列車の運転士は「(女児が)線路に横たわっていた」と説明しており、同署は自殺とみて調べている。女児の母親は、自殺について思い当たること

